

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末

創刊日：1999 年 12 月 8 日

編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

2001 年 展示会レポート

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

展示会レポート

TeleCon 2001

アメリカ カリフォルニア州アナハイム

2001 年 10 月 22 日 ~ 10 月 25 日

米最大の会議システム展示会

先月、2 回の渡米でボストン、アナハイムと行って来ましたが、アナハイムへは、世界最大のテレコンファレンスショーの TeleCon に参加してきました。TeleCon は昨年と同様、アナハイムのアナハイムコンベンションセンターで 10 月 22 日から 25 日にかけて開催されました。



また来年からは、Collaborate Conference & Expo East/West で、名称変更し East は、6 月 25 日から 27 日ボストンのハインズコンベンションセンターで、また West については、11 月 5 日から 7 日までアナハイムコンベンションセンターで開催されることになりました。

これも、TeleCon の意味がカバーできる範囲から現在の市場の現状がはみ出しているため、それをカバーした意味の言葉として Collaborate が利用されることになった。

今年の予想来場者数は、3 万 5 千でしたが蓋を開けると非常に寂しい今年の TeleCon で閑古鳥が鳴いている感じぐらいに思われました。やはり、いろいろな方と話をしてみると今回は飛行機なのでキャンセルしたという方も結構いらしゃるようで、同時テロの影響が出ているようでした。

こういった状況の中で、出展をキャンセルしたところもあったようで、前年の 200 社あまりに比べ半減し、今年の出展社数は、日系のソニーと日立ソフトを含め 105 社でした。



ソニーは、同社がプロモートしている、“e-conference”を紹介していました。ソニーでは、PCS シリーズのテレビ会議を販売していますが、アメリカでは、PCS-6000 は標準で IP インターフェイスを搭載しているとのことでした。日本では IP の傾向はあれど、まだかなという感があり、国内では IP インターフェイスはオプションとして提供しているとソニーアメリカに出向されている日本人の方にお話を伺いました。また、日立ソフトは、ブースに何う時間が残念ながらなかったのですが、同社が提供する電子遠隔ホワイトボードを展示してたようです。また、

基調講演として NTTドコモ USA の吉川さんが日本における携帯サービスの現状と 3G サービスに対する展望についてお話されていました。アーカイブされていますので、下記 URL で拝聴できます。

<http://meet.webex.com/free.cfm?TrackID=250013>

本格的な IP の企業におけるインプリメントは 5 年から 6 年先だと言う方もいらっしゃいましたが、会場の雰囲気は IP へ向けての各企業のソリューションの発表の場となっていました。

展示会場もプレゼンテーションセッションでも IP の言葉がでないところはないくらい IP 化へのシフトが十分感じられる今回の TeleCon でした。



また、タンバークは、IP パビリオンということで、IP ビデオソリューションについてのセミナーセッションを毎日会場で行っていました。TeleCon という場合は、毎年ではありますが、各企業の新製品、新サービスなどの大発表の場で、全部をフォローするのは大変ですが、目に付いたところと言えば、イノメディア社の IP VideoPhone などの端末から、FVC の ClickToMeet、SeeSaw などのビデオネットワークに関するエンド TO エンドのソリューションやビデオコールトラフィックを効率的にマネージメントするポリコムの PathNavigator、やマルチベンダビデオネットワーク環境を視野に入れたマネ

ージメントソリューションである、フォージェントの Video Network Platform などなど。枚挙に暇がありませんが、さまざまなソリューションが IP を完全に視野に入れて、既存の H.320 などの設備投資も保護する観点からネットワーク運用・管理といったネットワーク・ソリューションが提供されていると言う状況です。

こういったソリューションというのは、どこの企業でも言っていました。簡単操作、シンプル、シームレス、信頼性、セキュリティというのがうたい文句です。また、ワイヤーワンという IP ビデオ接続サービスを提供しているところなどは、ビジネス用途と視野に入れたサービス展開をしているため、信頼性 (Reliability) を重視し、QoS の維持と SLA の提供を行っています。また、ここは、イギリスにも POP を持ち今後は日本へもと考えています。このサービスは基本的に会員制 (Subscription Service) で、24 時間のビデオによるテクニカルサポート体制も万全です。



SeeSaw についてですが、これはリアリティフュージョン社で提供されているグループコンファレンスを考えたデスクトップタイプのコンファレンスソリューションですが、基本的には、使った分の有償サービスとして提供していて、ソフトウェアのダウンロードを行い、別売でカメラなどをそろえることにより、簡単かつ低価格で企業でも一般ユーザーでも利用できるものです。イントラネットから外部への接続でも、簡単にダウンロ

ードしたソフトでゲートウェー設定マークにチェックするだけでイントラネットからの利用も可能で、現在は、H.323には対応してはいるが、またデータ共有などもできませんが、近い将来 H.323 に対応するようです。

端末系のお話をしますと、アジア系の CEO が設立したイノメディアと呼ばれる会社では、IP テレフォニー系のソリューションを提供しているのですが、その中で IP ビデオフォンと呼ばれる製品を販売しており、見た目は NTT フェニックスミニに似たようなもので、ネットワークインターフェイスは、IP(H.323)に対応しているとのこと。確か一台 1500ドル前後で販売されているようです。

そして、タンバークは、無線 LAN 対応の Tandberg1000 とマイナーチェンジを施して 50 インチの大プラズマモニター、機能向上を図り、8000 を市場に投入したわけですが、それらの製品展示。また、ポリコムなどでは、PathNavigator と合わせ Viewstation や IP 対応の Soundstation、GSM などなどが展示されていました。ソニーは、前述の e-conference と同時に PCS-シリーズの製品も展示されていました。



講演セッションなどは、ほとんど私自身出席する暇がなかった(一日 5 から 6 のミーティングをこなしていたため)のですが、ひとつ Analyst Roundtable というものにも出席をしまして、要は、テレビ会議関係のアナリスト(フロスト&サリバン、

テレスパン、ウェインハウス、ペーレーリサーチ)が、先日の同時テロのインパクトと、テレビ会議などのコンファレンスの普及になにが障害になっているのかといったような内容で、40 分ほどのセッションでした。

同時テロのインパクトについては、出張などの代替手段としてテレビ会議などが注目を浴びている、テレビ会議などの導入やサービスが増えているようなので、第 4 四半期(2001 年 10 月-12 月)は導入が進み、今年は出荷台数で 10 万台を超えるのではないかとの見方(2000 年は 8 万台強)から、今後この傾向が長期的な成長に結びつくのではないかとといった全体的な話。



また普及への障害としては、障害(バリア)はないと述べたアナリスト(エリオットゴールド:テレスパン)もいましたが、認知の問題や習慣・文化などの問題もあるのではないかとといった反論(クリスティンペレー:ペレー)もありました。いずれにせよ、こういった問題は、例えばこよう風に利用できるといったデモ的なものを行えば認知度も上がってくるのではないかということペレー氏は述べていました。もうちょっと、せめて1時間程度はほしかったセッションだった感じがしています。実際のところ、40 分のうち 10 分を聴講者との質疑応答に使っていただけだったので、議論としてはほんのさわりという印象はいいかもしれません。あと、Service Provider Roundtable というものにも出席したかったところですが、時間の都合上できませんでした。

来年からは21年の歴史とともに歩んできた”TeleCon”に変わり、”Collaborate”という言葉になります。やはりTeleConだと今の業界の動向ソリューションの変遷を見ると、必ずしもTeleConがそれを体現した言葉のように思えなくなりつつあるのが現状だった気がします。この”ズレ”も昨年ぐらいから段々強くなってきていた感じが個人的にはしていましたので、どうなるのかなとは思っていましたがやはりそうかというのが私の実感でした。



TeleconferencingNOW Vol.3 No.9 2001年11月4日号
 (TeleconferencingNOWは、1999年創刊から2002年12月までの定期レポート名です。)

編集長 橋本啓介